

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年11月17日（月）

2 確認箇所

5号機原子炉建屋（図1）

3 確認項目

5号機使用済燃料プールからの燃料取り出し状況

4 確認結果の概要

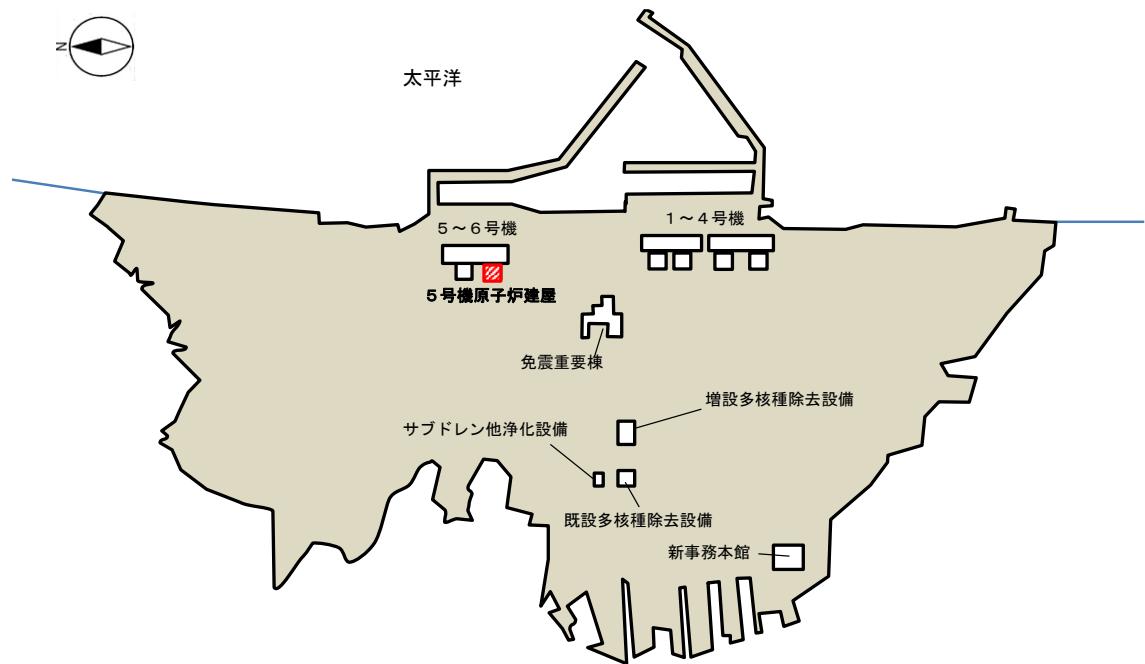
東京電力は、中長期ロードマップの目標である令和13年内の1～6号機燃料取り出し完了に向け、5号機の使用済燃料プールに保管されている使用済燃料の取り出しを令和7年7月23日に開始した。

前回は、1,542体の燃料（使用済1,374体、新燃料^{※1}168体（令和7年7月23日現在））が保管されている使用済燃料プールとその周囲の状況を確認しているが、今回は、使用済燃料プールに保管されている使用済燃料をプール内に設置した輸送用キャスクに収納する状況を確認した。（前回確認：令和7年7月28日）

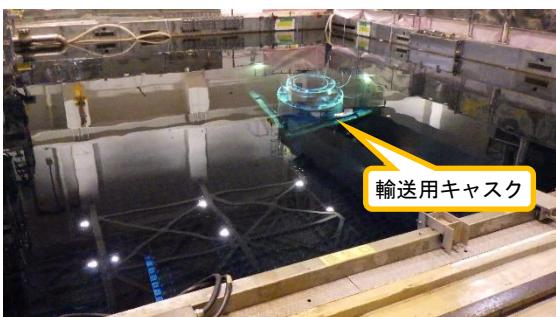
- ・ 使用済燃料プールのプール水はオーバーフロー水位^{※2}付近にあり、水面に異物等は確認されなかった。また、周囲に不要物等はなく整理整頓されており、確認した範囲において適正に管理されていた。（写真1）
- ・ 燃料取り出しに使用する燃料交換機を取り出す燃料の位置まで移動させ、手順に従い燃料をプール内の輸送用キャスクに収納していた。（写真2）
- ・ 新燃料貯蔵庫の蓋は閉じられていた。なお、5号機の新燃料貯蔵庫に新燃料は保管されていないが、蓋上に物品の仮置き等もなく、確認した範囲において適正に管理されていた。（写真3）

^{※1} 新燃料：未使用の燃料。使用済燃料に比べて放射線量が極めて低く、人が接近して取り扱うことが可能。熱が発生しないことから、プール等での冷却も不要。

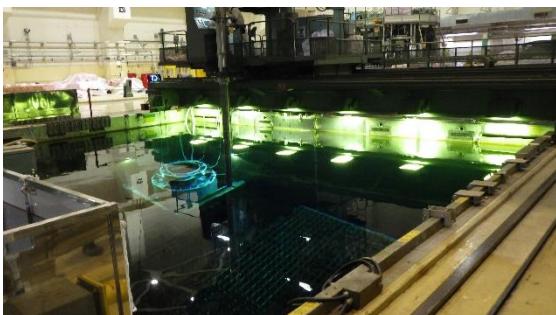
^{※2} オーバーフロー水位：使用済燃料プールにおいて、冷却系が適切に運転している状態を示す基準水位。この水位を超えてオーバーフローした水は、スキマサージタンクに流入し、熱交換器やろ過器を通過したのち、再び使用済燃料プールへ戻される。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)
5号機使用済燃料プールの状況



(写真2－1)
プール内における使用済燃料の
キャスクへの装填作業状況①



(写真2－2)
プール内における使用済燃料の
キャスクへの装填作業状況②



(写真2－3)
プール内における使用済燃料の
キャスクへの装填作業状況③



(写真3)
5号機新燃料貯蔵庫の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。